



環境経済論A

第8講

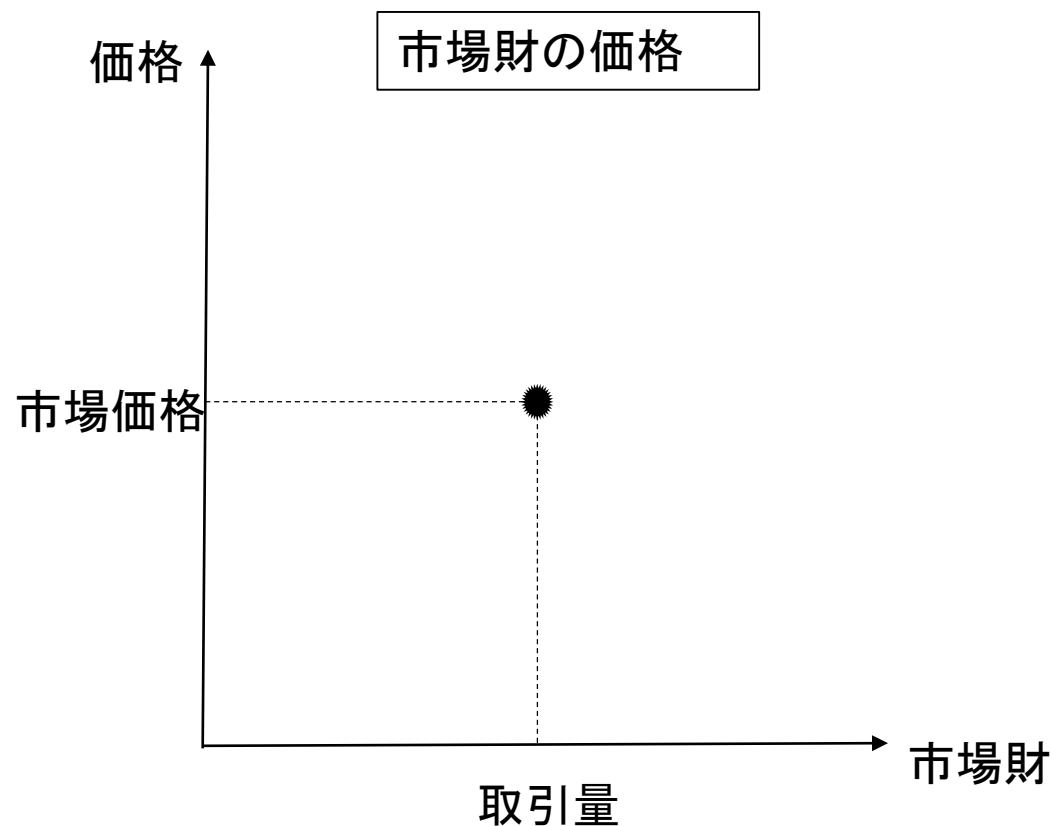
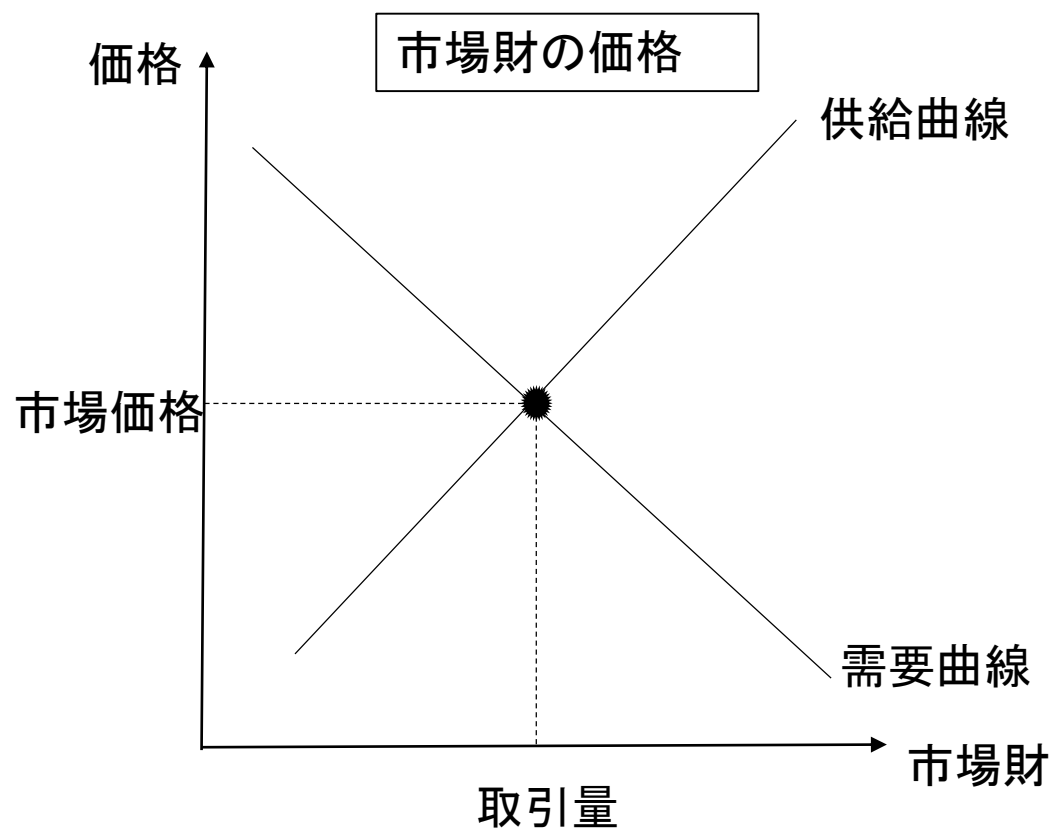
環境の経済評価手法①

環境の経済評価手法

- 環境を価格付けする意義
 - 外部性を持つ「環境」は価格を持たない
 - 価格を持たない＝価値がない？
 - 「環境」: 価値があるのに価格がない
 - 市場財は価格を持つが、非市場財は価格を持たない。
 - 無理でも何とか価格を付けたい。
- 「環境経済学」大ブレーク(1990年代)のきっかけとなった。

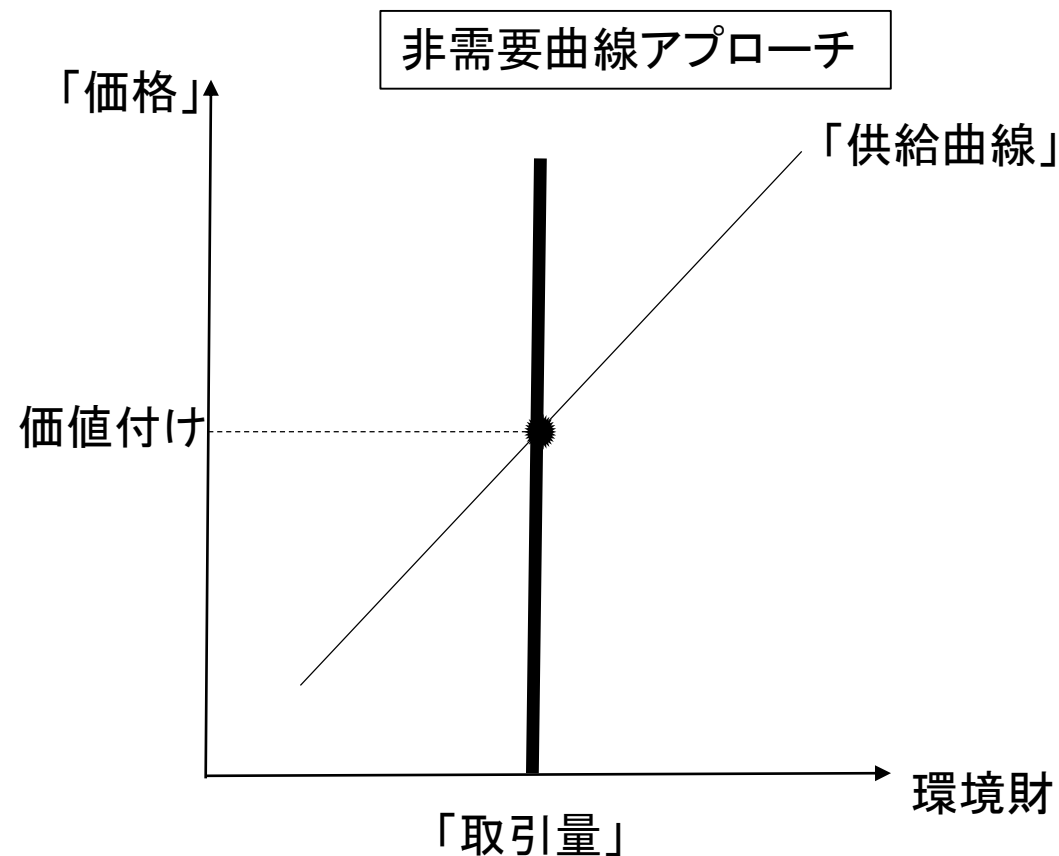
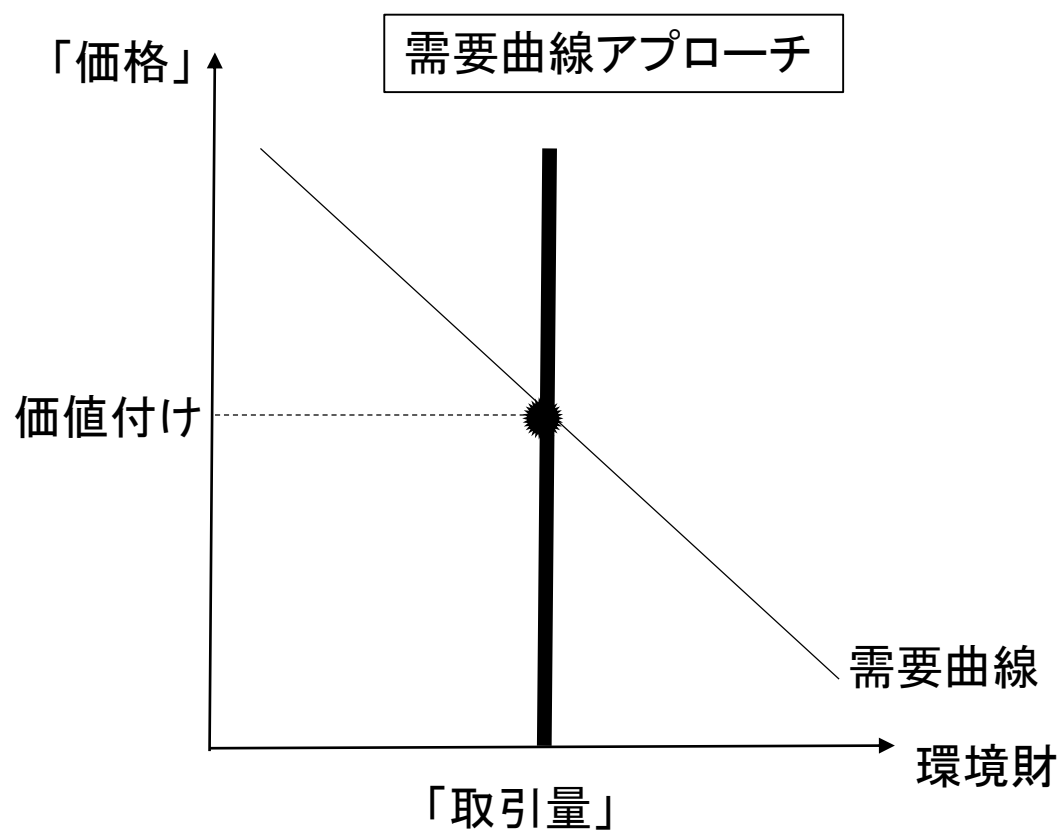
環境の経済評価手法

- 非市場財の価格付け (pricing)
- 市場財の価格⇒需要曲線と供給曲線の交点で定まる。



環境の経済評価手法

- 非市場財の価格付け(pricing)



需要曲線アプローチと非需要曲線アプローチ

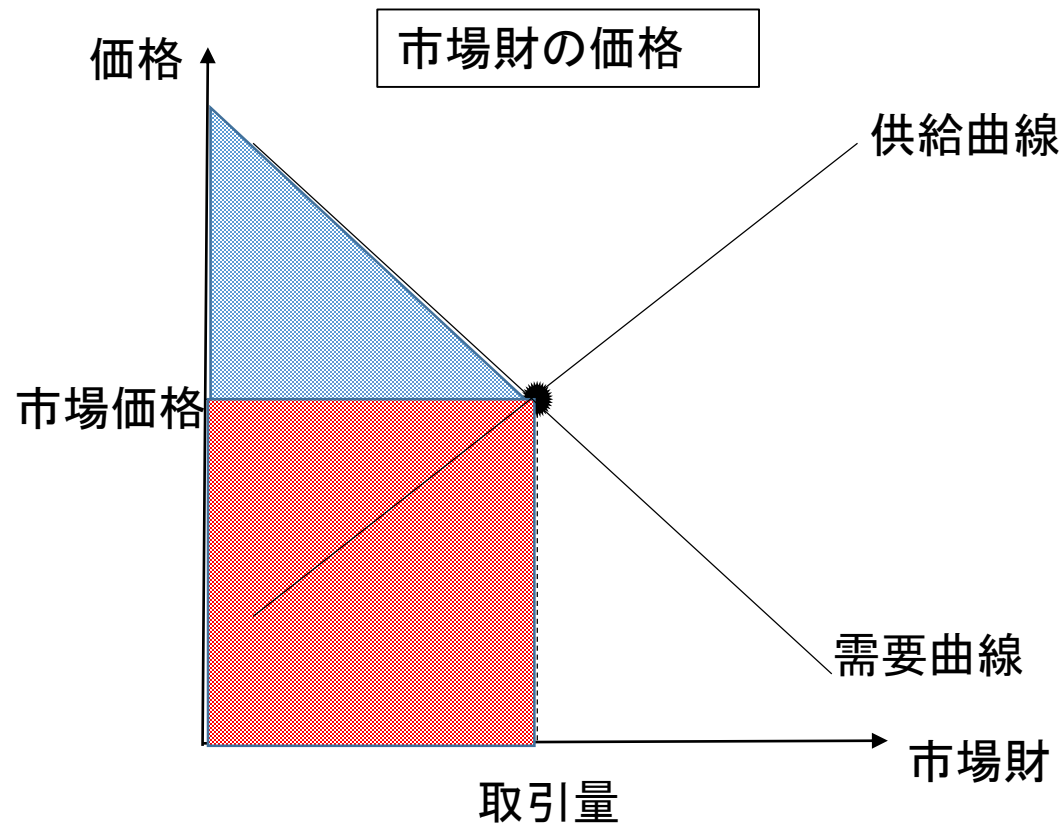
- 需要曲線アプローチ
表明選好法, 顕示選好法
- 非需要曲線アプローチ(選好独立法)

需要曲線アプローチ

- 表明選好法
仮想評価法 Contingent Valuation Methods, CVM
- 顕示選好法
旅行費用法 Travel Cost Methods, TCM
ヘドニック価格法 Hedonic Price Methods, HPM

非需要曲線アプローチ(選好独立法)

- 置換費用法, 再生費用法 Replacement Cost Methods, RCM
- 非市場財の価格付けとして, 理論的に「正しい」アプローチ



非需要曲線アプローチ(選好独立法)

- 需要曲線アプローチは、環境財から得られる効用の評価額(消費者余剰を含む)
- 非需要曲線アプローチは、環境財を得るためのコスト(支出額)

